正か邪か（六巻）

帝キネ時代映畫

原作並脚色者　倉光春波
監督者　佐藤樹一路
撮影者　岡本靜夫

――主要役割――

先生と呼ばれる濱人　明石綠郎
その情婦　千草香子
掏摸の親分　阪東豊昇
その乾分　岩井竹綠
同　中村仙三郎
同　市川潮老三郎
同　吉川精二
富豪の娘　高津愛子
その父　市川福十郎
小間使　岡英子
長屋の女　尾崎靜子

〔略筋省略〕

主材にされてゐる武士はかなり變つた生活をしてゐる。少くとも今までの帝キネ時代映畫には餘り其の類型を見ない人間である。掏摸の一團に拾はれた彼が、純眞な娘に戀した爲めに自分の暗く廢頽的な生活樣式に愛想をつかす心の推移――殊に子供たちを集めて其の純な心持に浸らうとする所などは實にいゝ手際に出來上つてゐる。けれど此の主材で單に面白く、都合よく事件が運ばれ、それにわざとらしい惡魔的手法（？）を施しさへしなかつたら、もつとすつきりと嫌味のないものになつてゐたに相違ない。監督が主人公の氣持をより以上効果的に表現しやうとした爲めに却つて嫌味になつてゐる。明石君は實に熱心だ。千草君、高津君などの從演は先づ無難な色どりといふところ、キャメラが斜面から主題を映してゐる箇所が多かつたが、大變いゝ試みだと思ふ。佐藤君出色の佳作だ。

――水町青磁――

興行價値――題名が一割損な浮薄な感じを與へるが、內容的には隨分いゝ作品だ。殊に帝キネとしては新鮮味に滿ちたテーマが、都會の觀客に受ける。（八月廿六日　大阪芦邊劇場　神戸相生座封切）